




## 論文審査及び最終試験結果報告書

<b>課 程 博 士</b>	地域社会研究科 地域社会専攻 地域産業研究講座		
<b>学 籍 番 号</b>	17GR102	<b>氏 名</b>	大西 晶子
<b>審 査 委 員</b> (自署又は記名押印)	主 査	大倉 邦夫	
	副 査	森 樹男	
	副 査	黄 孝春	
<b>(論文題目)</b> ソーシャル・イノベーションの中長期的な発展 ―ステイクホルダーとの関係性を通して―			
<b>(論文審査の要旨)</b> 本論文は、地球環境問題、少子高齢化問題、地域活性化等の社会的課題の解決に対してビジネスの手法を用いて取り組むソーシャル・ビジネスに着目し、その中長期的な成功要因を考察することを目的としている。 本論文では先行研究の検討を通して、ソーシャル・ビジネスに関する研究の多くが、事業の立ち上げ期に焦点を当てており、それ以降の展開については十分な検討を行っていないことや、成功要因として注目されているソーシャル・イノベーションについても、創出と普及の両面が分析されていない、といった課題を明らかにしている。これらの点を踏まえ、本論文は、ノットワーキングという概念を用い、ソーシャル・イノベーションの創出と普及、それぞれの側面を包括的に捉える分析枠組みを設定している。 本論文の後半部分では分析枠組みに基づきながら、過疎化の進む地域で設立され、対外的な評価も高く、現在に至るまで中長期的にソーシャル・ビジネスを営んでいる、①企業組合である・それ、②NPO法人スポネット弘前、③株式会社ヘラルボニーを対象に事例研究に取り組んだ。その結果、それぞれの事例は、多様なステイクホルダーとの関係性を構築することにより、ソーシャル・イノベーションの創出と普及に必要な資源動員に成功していたことが示された。特に、ステイクホルダーとの関係構築においては、事業展開に応じて柔軟にステイクホルダーを組み換えつつ、継続的に資源動員を進めることの必要性を本論文では明らかにした。 最後に、本論文はソーシャル・イノベーションを継続的に生み出し、普及させていくことが、ソーシャル・ビジネスの中長期的な成功においては必要になることを主張している。また、企業家には事業のビジョンやミッションを提示しながら、ステイクホルダーを巻き込んでいくことや、組織体制の基盤を確立することが求められるという点を示している。			
<b>(最終試験結果の要旨) 最終試験実施日：令和 7 年 2 月 1 日</b> 最終試験では、ソーシャル・イノベーションの創出と普及を包括的に捉えた新規性の認められる研究であること、丁寧なインタビュー調査・二次資料調査に基づく比較事例分析を行っていることなどが評価された。 一方で、ソーシャル・イノベーションの概念的な整理や事例の位置づけにやや不十分な点が見られること、比較事例分析において指標を設定しつつ、定量的なデータをより充実させることの必要性が課題として示された。 論文において課題は見られるものの、学術的な新規性・貢献性を踏まえ、審査委員全員一致で博士論文に相応しい内容であるとの結論に至った。			